① おろんの会（大隅北校区）（鹿児島県曽於市）

（構成：会長１名（市社協評議委員，80 歳），会員 14 名（校区公民館長，校区社会福祉協議会会長，小規模多機能ホーム「より愛さかもと」運営推進委員，「より愛さかもと」事業所管理者，地域のボランティア，理髪業，大工，農業者等））

②《活動主体の概要》

○総 人 口：　１，２２５人
○高齢者数：　５４１人
○世 帯 数：　４９２世帯
○産業構造：　農業従事者が多い
○地理的構造：標高が 350 メートルと大隅半島で最も高い場所に位置し，県内でも有数の寒冷地

○「おろん」の由来：
江戸時代に馬を追い込んで捕獲する「苙（おろ）の迫」と呼ばれる場所だったことにちなみ，人が集まる場所にしたいとの思いから命名

○「おろんの館」活用状況：
鮮魚市を月２回（野菜・果物・販売とお茶飲みサロン）
青空市を年４回（季節の野菜や花・手づくり食品など地域の店が多く出店し，保育園の子ども達や近くの小規模多機能型居宅介護事業所の利用者も出店参加するなど楽しい交流の場となっており，地域の見守り活動にも一役買っている）

③活動のきっかけ

平成 21 年度に地区内唯一のお店が撤退し，隣町まで行かないと買い物ができなくなり，車を運転しない高齢者の方にとって不便な状態となりました。このような地域の現状が小規模多機能ホーム「より愛さかもと」の運営推進会議で話題になりました。そこで，地域内の懇親会の席で「このままではいけない。何かできることを自分たちで！」との思いを語り合い，地域の有志 14 名から成る「おろんの会」を結成しました。

結成後，まずは，高齢者が気軽に立ち寄りお茶のみができるようにと「おろんの館（東屋）」を建設し，新しい地域の拠点を整備しました。（おろんの館は珍しい 3 本足の東屋です）

④活動方法

「おろんの館」は，まず地域のサロンやお茶飲み会に活用されるようになり，次に，季節ごとの食材等を販売する「おろん市場」の開催も始まりました。

それでも，車の運転をしない高齢者を中心に買い物に不便な状況が続き，新鮮な魚介類を口にする機会が少なく栄養状態の心配もあったことから，「新鮮な魚が手に入りにくい」という声に応えられないか，おろんの会のメンバーと地域住民で話し合いました。その結果，会員の有志 4 人が交代で，朝 6 時に片道 1 時間 30 分かかる肝付町内之浦漁港へ自家用車で仕入れに出かけ，持ち帰って「おろんの館」で販売する“鮮魚市”の活動を始めることになりました。

この“鮮魚市”を，現在は月２回（土曜日）開催しており，仕入れた魚を乗せた車が午前 10 時ごろに戻ると，会のメンバーや助人隊の手によって販売しています。午前 10 時の販売開始前には，有線放送で鮮魚市の開催を聞いた住民が「おろんの館」の前に行列をつくっており，新鮮な魚が 1 時間ほどで売り切れます。

「おろんの館」まで来られない高齢者や体の不自由な方へは会員が配達をするなど，住民同士の助け合い活動や見守り活動が自然と生まれています。

⑤工夫点

■「おろんの館」の建設について

会員で少しずつお金を出し合い地域住民の協力も頂きながら土地所有者と交渉し，地域の空き地を活用しました。経費節減のため廃材の一部活用や，地域の大工さんに仕事の合間にボランティアで建設してもらいながら，約５か月間をかけて完成させました。

「おろんの館」の棟上げの際は，餅つきから片づけまで地域の多くのボランティアが協力し，近くの保育園児や地域の多くの方が駆けつけ，当日は 150 名ほどの参加がありました。建設までの５か月間は，事あるごとに地域の皆さんに状況を伝え一緒に地域の気運を高めました。

■鮮魚市や野菜市の開催について

定期的な開催になるようにし，チラシ配布や，校区内放送で事前に周知しています。魚の種類もできるだけ地域の人の好みに合わせて仕入れをして，野菜はできる限り地域でできたものを販売しています。また，販売品の到着時刻を 10 時 30 分前後とし，待ち時間は，地域の皆さんが気軽におしゃべりができるようにお茶の準備や季節によっては，甘酒やぜんざいの振る舞いをすることもあり，地域の皆さんの憩いの場となっています。

⑥成果

「おろんの館」を建設したことで，地域住民の新たな憩いの場が誕生し，住民同士の交流が増えたことです。鮮魚市の日は，朝から地域の人でにぎわい，近所の人に手を引かれた高齢者の方など，普段なかなか外出の機会がない方もおり，地域の人と語ることを楽しみに来る方もいます。隣にある曽於市社会福祉協議会が運営する小規模多機能ホーム「より愛さかもと」の利用者も市場に参加し地域の方々と頻繁に交流が出来るようになり活気があふれてきています。

また，大隅北校区は，野菜は豊富にありますが，魚が手に入りにくい場所です。新鮮な魚介類を食べる機会を提供することで，栄養状態の改善に少しでも寄与できているのではないかと思います。

⑦課題

おろんの会のメンバーが高齢化し若い世代の後継者が育っていない事です。また，平成 28 年度から地域の放送がＦＭ放送へ変わるため，校区内への周知が難しくなりそうです。魚や野菜は，天候に影響されやすいので，鮮魚市開催日程の変更も多いのが課題です。

⑧代表者、事業者等の声

■「おろんの会」会長

「地域からお店がなくなって，何かしなければ」と始めた活動ですが，今ではみんなが楽しみにしてくれ，私も高齢者だけどもう少し地域の役に立てるのかなと思っています。若い後継者が育たないとの課題はありますが，今後は「おろんの会」の活動から地域自治会を巻き込んだ活動に広げて行きたいと思います。

■「おろんの会」会員（小規模多機能ホーム「より愛さかもと」管理者）

隣接地に「おろんの館」が出来た事で利用者の皆さんが，身近に知人や馴染みの方々とふれあう機会が増えました。また，おろんの市場で利用者さん達がお菓子や季節の漬けものなどの販売も行うようになり施設全体が活気づいています。認知症のある方が落ち着きを取り戻し生き生きとした表情になるなど自立支援につながっています。

⑨その他

大隅北校区は，元々，地域福祉活動のさかんな地域であり，助け合いの気持ちの強い地域です。そんな中，一部地域での限定はありますが，『話してみよう・頼んでみよう・あなたの困りごと』と銘打って地域ボランティアによる「ほっとサービス」も展開するようになりました。ゴミ出しや買い物代行など些細なことから相談を受け付けて，高齢者などに大変喜んでもらっています。利用料金は 30 分で 300 円です。